

# 普及活動現地情報

## 「農業現場では、今」

平成 30 年 7 月号



【有田振興局】7/9 有田農業女子プロジェクト第1回研修会を開催！

和歌山県農林水産部経営支援課  
(農業革新支援センター)

## はじめに

普及活動現地情報は、普及指導員等が行う農業の技術普及、担い手育成、調査研究、地域づくり等の多岐に渡る現場普及活動や、運営支援を行っている関係団体の活動、産地の動向等、その時々々の旬な現場の情報をとりまとめたものです。

それぞれの地域毎の実情に応じて、特徴ある普及活動を展開していますので、是非、御一読頂き、本情報を通じて、普及活動に対する御理解を深めて頂くと共に、関係者の皆様にとって、今後の参考になれば幸いです。

また、本情報については、カラー版（PDF ファイル）を和歌山県ホームページ内（農林水産部経営支援課：アドレスは下記を御参照下さい。）に掲載しており、過去の情報も閲覧出来ますので、併せて御活用下さい。

和歌山県農林水産部経営支援課ホームページ 普及現地情報アドレス

<http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/070900/hukyu/>

検索サイトより、以下のキーワードで御検索下さい。

和歌山県 経営支援課 普及



## < 目 次 >

頁数

<b>I 海草振興局</b>	<b>1 - 2</b>
1. 小学生を対象に農機とアイガモの見学会を実施	
2. J A和海いちじく部会にてイチジク株枯病防除対策を説明	
3. コマツナのコナガ防除対策の検討	
<b>II 那賀振興局</b>	<b>3 - 4</b>
1. 平成 30 年度夏期果樹種苗研修会が開催されました	
2. ももの出前授業を開催	
3. 那賀地方有機農業推進協議会が共育支援メニューフェアへ出展	
<b>III 伊都振興局</b>	<b>5 - 6</b>
1. 重点プロジェクト【省力化と新品種導入による柿産地の振興】 ～柿葉利用モデル園のテスト収穫～	
2. 農業技術講習会 花コースを開催	
<b>IV 有田振興局</b>	<b>7 - 1 1</b>
1. 新規就農者等を対象に研修会を実施	
2. 有田地方環境保全型農業研究会総会・研修会を開催！	
3. 有田農業女子プロジェクト第 1 回研修会を開催！	
4. 有田地方農業士協議会研修会を開催	
<b>V 日高振興局</b>	<b>1 2 - 1 4</b>
1. 重点プロジェクト 【新病害虫や梅干し生産への特化のリスクに強い梅産地づくり】 ～「露茜」の導入推進・生産安定技術の実証と「露茜斑入果病（仮称）」の まん延防止～	
2. 日高地方農業士会女性部会が現地研修会を実施	
3. 印南町農業士会がサル対策研修会を開催	

<b>VI 西牟婁振興局</b>	<b>15-18</b>
1. 重点プロジェクト【気象条件等に対応した果樹産地の振興】 ～温州ミカン「YN26」粗摘果講習会を開催～	
2. 茶の深刈りを実施	
3. すさみ町立周参見小学校で「ももの出前事業」実施	
4. ヨモギ栽培実証展示圃について	
<b>VII 東牟婁振興局</b>	<b>19-20</b>
1. 重点プロジェクト【新規就農者の育成を核としたイチゴの産地育成】 ～「まりひめ」高品質多収栽培研修（第2回セミナー）を開催～	
2. 地場産青果物対策協議会が先進地視察研修会を実施	
<b>VIII 農林大学校</b>	<b>21</b>
1. オープンキャンパスを開催	
<b>IX 農林大学校 就農支援センター</b>	<b>22</b>
1. 平成30年度ウイークエンド農業塾 農業入門コース（第1班）閉講	
2. UI ターン就農相談フェアおよび農業体験研修を開催	
<b>X 経営支援課</b>	<b>23-24</b>
1. 第1回経営発展セミナーを開催	
2. わかやま農業MBA塾を開講	

# I 海草振興局

## 1. 小学生を対象に農機とアイガモの見学会を実施

農業水産振興課では、和歌山大学教育学部附属小学校 5 年生 96 名を対象に米づくり体験学習を実施している。

6 月 14 日に和歌山市梅原の貴志正幸氏水田で田植え体験を実施したが、米づくりのこともっと知ってもらうため、7 月 12 日に農機とアイガモの見学を行った。

農機見学では、圃場を耕運するトラクターから田植え機、動力噴霧器、コンバイン、乾燥機、粃すり機などの実物を見てもらったが、児童達は熱心に質問しメモを取っていた。

そのあとは自分達で植えた稲の生育を確認し、一番楽しみにしていたアイガモを見学し、実際にアイガモに触れた。児童達は一生懸命に泳ぐアイガモを「かわいい」といいながら優しくタッチしていた。

今後は 10 月に収穫体験を計画しており、収穫したお米については家庭科学習の時間に実食を行う予定である。



熱心にメモを取る児童達



待望のアイガモタッチ

## 2. JA和海いちじく部会にてイチジク株枯病防除対策を説明

和歌山市は紀の川市に次ぐ県内第 2 位のイチジク産地であり、特に東山東地区で栽培が盛んである。近年、重要病害であるイチジク株枯病がまん延しており、成木になる前に枯死するなど、安定生産が難しい状況にある。このため農業水産振興課では平成 27 年から平成 29 年度までの 3 年間、普及指導計画の重点普及課題としてイチジク株枯病の防除対策について取組み、3 月にマニュアルを作成した。

7 月 27 日、JAわかやま東山東支店において、JAわかやま、JAながみねの合同出荷部会である JA和海いちじく部会（会長：神谷和生氏）による露地イチジクの目揃え会が行われた。集まった部会員約 50 名に対して、佐々木技師が昨年度に行ったイチジク株枯病とアイノキクイムシの全園調査結果を報告するとともに、作成した株枯病防除対策マニュアルを配布し、7 月に行う防除対策等について説明した。



今年度も、東山東地区において株枯病の調査を10月から11月にかけて実施する予定である。



マニュアル等を説明する佐々木技師



イチジクの出荷基準を確認する部会員

### 3. コマツナのコナガ防除対策の検討

近年、和歌山市の施設栽培コマツナにおいて、コナガに対する主要な農薬で感受性の低下が懸念されており、交信攪乱による防除技術の確立が期待されている。

そこで昨年度から、農業試験場が中心となって、JAわかやま、農業水産振興課が連携し、和歌山市布引地区において性フェロモン剤による交信攪乱による防除効果を検討している。

今年度も7月30日に布引地区の一角（約7ha）にコナガの交信攪乱用フェロモン剤の設置を行った。

今後、定期的にフェロモントラップ誘殺数や実際の被害調査などを行い、防除効果の確認を行っていく予定である。



性フェロモン剤の設置作業

## Ⅱ 那賀振興局

### 1. 平成30年度夏期果樹種苗研修会が開催されました

7月9～10日、(一社)日本果樹種苗協会による夏期果樹種苗研修会が那賀地域にて開催された。地元果樹種苗関係者など70名の参加があった。

農業水産振興課では10日の現地視察を担当し、紀の川市粉河にある地域農業士の木村陽作氏圃場にて北原普及指導員が「ゆら早生」「YN26」の栽培特性について説明を行った。

園主の木村氏からは自身のは場における「ゆら早生」の栽培管理方法の紹介があり、種苗関係者は、栽培管理上で留意する点等について熱心に質問していた。



現地研修会



「YN26」の説明

### 2. 桃の出前授業を開催

7月11日、紀の川市立粉河小学校4年生41名を対象に、那賀地域の特産物である桃の出前授業を行った。この授業は、児童達が県産果実の知識を深め、農業の理解促進と郷土愛や食に対する感謝の気持ちを醸成することを目的として行っている。

最初に果樹園芸課より桃の贈呈式が行われた。出前授業では、農業水産振興課の北原普及指導員が、和歌山県の桃の生産量や品種、栽培方法などを説明した。続いて、普及指導協力委員の山内勸氏から、農業経営の状況や、桃の栽培から収穫・出荷までの実際の取組や栽培について説明があった。その後、児童らは家庭科室で実際に桃の皮をむき丸かじりした。

試食の際、管内の女性起業グループが製造した桃のジャムをクラッカーにのせて試食した。

児童からは、桃についての素朴な質問が飛び交い、関心が高まったと感じた。今後も当課では、地元の特産物についての食育を推進していく。



桃の贈呈式



北原普及指導員による桃栽培の説明

### 3. 那賀地方有機農業推進協議会が共育支援メニューフェアへ出展

那賀地方有機農業推進協議会（会長：関 弘和）は、7月24日、和歌山市の県立体育館で開催された県教育共育支援メニューフェア（主催：県教育委員会）に昨年度に引き続き参加した。

本フェアは企業、大学、NPO等の団体及び行政機関等が学校教育や社会教育関係者に対し、様々な支援メニューを提案し情報交換することを目的としている。

協議会では、子どもたちにも有機農業に触れてもらえるよう活動しており、今年度も「有機農業に関する出前授業」と「農作業体験」を共育支援メニューとして、会員の田んぼや畑の生き物を展示・説明しながら教育関係者らに提案した。

今年度は72の企業や団体が参加し、協議会のブースへも小中高の先生や幼児教育の関係者らが訪れ、支援内容等について意見交換を行った。

今後も、農業水産振興課では、有機農業をPRする協議会活動を支援していく。



協議会の取組をPR



ブースを訪れた教育関係者への説明



### Ⅲ 伊都振興局

#### 1. 重点プロジェクト【省力化と新品種導入による柿産地の振興】

##### ～柿葉利用モデル園のテスト収穫～

近年、管内の柿の生産現場では、生産者の高齢化が進み、耕作放棄園地の増加が問題になっている。そこで、農業水産振興課では軽労的に柿園を管理し収益を得る方法として、7年間放棄された樹を対象に、樹の再生と柿の葉寿司に用いるための柿葉利用の可能性について本年度から検討を始めた。7月26日、柿の葉のテスト収穫を行い、収穫・調整の時間および病虫害の発生状況について調査した。

2名で3樹を対象に葉の収穫を行ったところ、平均で1樹あたり約120枚収穫できた。また、傾斜園で樹高も高く、脚立が必要であったため、1樹あたりの収穫時間は10分34秒必要であった。その後持ち帰り、葉柄を切り規格サイズに収まる葉の選別を行った。規格サイズの葉の割合が79.2%で、規格内の葉を100枚そろえるのに17分42秒必要であった。病虫害の発生状況では、うどんこ病にかかった葉が特に多くみられ、罹病率は23.3%であった。

次年度は柿の葉に登録のある農薬の散布試験を行い、柿の葉寿司業者へのテスト出荷を実施して収益性について検討を行いたい。



柿の葉のテスト収穫

## 2. 農業技術講習会 花コースを開催

7月2日、伊都振興局において、農業技術講習会花コースを開催し、受講申込みのあった6名全員が出席した。

初めに、五十嵐技師が花栽培の基礎、ストック・ハボタンの栽培管理について説明した後、受講生にストックのセルトレー苗を配って、八重鑑別の実習を行った。

振興局での座学が終了後、農林大学校へ移動し、神谷准教授の案内で、定植もないカーネーション施設やバラ温室、土壌消毒中の施設、トルコギキョウのクーラー育苗、千両の遮光栽培、定植時期をずらして、収穫時期を変えたコギクの露地栽培等を見学した。

受講者からは、「意見交換の中で色々な話が聞けて良かった」「農薬が効きにくくなっているので、効果的な農薬名を教えて欲しい」などの意見がでた。

今回、座学のあと、農林大学校の栽培圃場を見学したことで、理解がより深まったと思われるので、今後も同様の企画を続けていく。



振興局での講義



農林大学校の施設見学

## IV 有田振興局

### 1. 新規就農者等を対象に研修会を実施

農業水産振興課では、就農して間もない農業者に対し、知識や技術の習得を支援することにより、担い手としての定着促進を目的とするアグリビギナー等技術経営研修を7月2日、7月25日に実施した。

#### ① みかんの摘果、倉庫での作業効率化（7月2日）

新規就農者等9名の参加があり、最初に温州みかん園にて、農業水産振興課の上山普及指導員から「あら摘果」（この時期に行う1回目の摘果）の注意点を説明した後、園主とともに参加者と意見交換しながら摘果の実習を行った。

次に、倉庫での作業を楽にするため、台車の活用などを実践している畑中伸治氏より、自宅の倉庫内を案内してもらいながら、説明を受けた。

参加者は、園地にかいよう病やモグラの被害があったため、園主と対策について話し合ったり、倉庫でのコンテナ運搬の負担をできる限り少なくする工夫や、農機具等の整理整頓による作業時間の節約について、とても関心を示していた。

また、終了後に実施したアンケートでは、「成木だけでなく、若木やその他柑橘類の摘果方法も聞くことができて良かった」、「他の農家の倉庫内を見たことがなかったので、とても参考になった」という意見が多かった。



摘果方法の説明



参加者で摘果実習



倉庫のアイデアの説明



台車の活用方法等の説明



## ② 農業機械の安全使用、農業士との意見交換（7月25日）

新規就農者等 13 名のほか、有田地方農業士協議会（会長：嶋田勝彦）会員 7 名の参加があった。

農業機械の安全使用については現場作業室にて、県農業大学校（現 農林大学校）で農業機械の指導に長年携わった川原泰高氏より、刈払機の構造やメンテナンス、使用上の注意点について、実物を見ながら説明を受けた。

終了後、会議室にてグループに分かれ、農業士の方々を進行役として、意見交換会を実施した。

自己紹介のあと、新規就農者より困っていることや今後の取り組みを発言してもらい、農業士より経験を踏まえた助言や今後期待すること等話をしてもらう形で進め、最後に各グループの意見発表により、全員で内容を共有した。

農業機械については、燃料やメンテナンス資材、作業時に身につけるアイテム等の質問の他、川原氏より紹介のあった「刈払機の取扱講習」の実施機関を知りたいという意見もあった。

また、意見交換会では、終了時間まで会話が途切れることがなく、「以前に人から聞いて理解できなかったことや鳥獣害対策について、じっくり話を聞くことができてよかった」、「天候等に応じた管理が必要なので、経験豊富な人のアドバイスがとても参考になった」という感想があった。

当課では今後、温州みかんの仕上げ摘果や剪定などの研修を予定している。



川原氏による刈払機の構造等の説明



取り扱い方についての実演



3～4人グループで意見交換



グループごとに意見を発表



## 2. 有田地方環境保全型農業研究会総会・研修会を開催！

7月5日、県果樹試験場にて有田地方環境保全型農業研究会（会長：池田義行）の総会・研修会が開催され、会員、新規会員希望者、関係者ら合わせて約42名が参加した。

研修会では、大阪府立大学名誉教授である山口裕文氏より「雑草の種類は人間の振る舞いで決まる」と題した講演会が行われた。地域や文化による雑草に対する認識の違いや雑草の生態、人間の生活と雑草の種類との関係性等について話があり、会員らは熱心に聴講し、「草生栽培で、どうすれば雑草に打ち勝ってグランドカバーの植物を上手に増やせるか」などといった質問がなされた。

同会は、化学肥料や農薬を減らしたカンキツ栽培を実践している、あるいはそれに興味を持つ有田管内の農家を中心に構成されている団体であり、会員の栽培技術向上や知識習得を目的として定期的に研修会を開催している。

今後も、農業水産振興課では環境保全型農業の普及・推進の一環として同会の活動支援を行っていく。



総会



講演会

### 3. 有田農業女子プロジェクト第1回研修会を開催！

7月9日、農業水産振興課は、普段あまり交わりのない農業女子同士が交流することで、知り合いの輪を広げ、農業についての知識や技術を身につけるきっかけをつくることを目的として、果樹試験場大会議室で「平成30年度有田農業女子プロジェクト第1回研修会」を開催し、管内の農業女子10名及び女性の農業士6名が参加した。

研修会では、「農薬用マスクの正しい使い方」について、株式会社重松製作所営業本部企画室長の安藤眞理氏による講演があった。マスク装着時の漏れ率を測定するなどの実演もあり、参加者らは、熱心に耳を傾けていた。

その後意見交換会を開催し、4名のグループに分かれて「農薬散布時に気をつけていること」、「今後の女子プロジェクトで何をしてみたいか」をテーマに話し合った。「女子プロジェクトで何をしてみたいか」については、「お弁当を一緒に食べながら、もっと長い時間意見交換をしたい」や、「他地域の農業女子と交流をしたい」といった意見が得られた。

これらの意見を参考に、第2回研修会を9月ごろ開催する予定である。

当課では、今後も女性農業者の育成支援に向け、活動していく。



安藤眞理氏による講演



意見交換会



集合写真

## 4. 有田地方農業士協議会研修会を開催

7月17日、有田川町の県果樹試験場において平成30年度有田地方農業士協議会（会長：嶋田勝彦）主催の研修会が開催され、各市町から農業士及び関係者併せて36名が出席した。

今回の研修会は、温州みかんの生産技術研修を目的に、果樹試験場の中地主任研究員、田嶋主査研究員、武田副主査研究員から、「今年の温州みかん（柑橘類）の状況と栽培のポイント」、「YN26、きゅうきの研究成果」について技術解説を受けた。

今年の温州みかんは、開花が早く、クエン酸が低い状況であることから、生育が早まっていると考えられ、収穫時期の浮き皮や水腐れ症の発生が心配されること、最近の強日射、高温は日焼け果の発生を誘発するとの説明があった。また、病害虫の発生状況について、カメムシの成虫数が多いこと、かいよう病が多発していることが報告された。

和歌山県のオリジナル温州みかん品種「YN26」、「きゅうき」については、最近3年間の研究成果を基に品種の特徴、栽培上注意する点等について詳しく説明を受けた。

農業士からは、「かいよう病が今まで経験にないほど多いが、防除はいつまで必要か」や「きゅうきの管理として樹体が大きくなるまで着果させないとの指導であるが、どれくらい大きさから着果させることができるのか」など、予定された時間を大幅に超える熱心な質疑応答が行われた。



和歌山オリジナル新品種  
「きゅうき」の解説



質疑応答



## V 日高振興局

### 1. 重点プロジェクト【新病害虫や梅干し生産への特化のリスクに強い梅産地づくり】

#### ～「露茜」の導入推進・生産安定技術の実証と「露茜斑入果病(仮称)」のまん延防止～

農業水産振興課では、新病害虫の侵入警戒とまん延防止と、梅干し生産に特化した農業経営を改善するため、青梅の省力化栽培技術や「露茜」「翠香」といった特徴ある品種の導入推進を普及指導計画の重点プロジェクトとして取り組んでいる。

「露茜」の導入推進・生産安定技術の実証のため、うめ研究所の研究成果を踏まえて、主幹形仕立ての栽培園を今年新たに実証展示ほとして設置するとともに、6月25日、収量調査を実施した。また、昨年JA紀州選果場内に整備された大型追熟処理施設において、JA紀州、うめ研究所とともに大量追熟処理等の調査を実施し、概ね良好な結果が得られた。

「露茜斑入果病(仮称)」の感染状況を把握するため、追熟処理後の果実を調査するとともに、管内に植栽された苗木のウイロイド検定のため、JA紀州と協力し、葉の回収とサンプル調製作業を実施した。調整したサンプルは、9月以降、果樹関係試験場において順次検定が行われるとともに、せん定前にはまん延防止のための講習会を開催する予定である。



主幹形栽培展示園の収量調査



JA処理庫による大量追熟処理



斑入果の発生状況を調査



ウイロイド検定用サンプルの調製



## 2. 日高地方農業士会女性部会が現地研修会を実施

7月17日、日高地方農業士会女性部会（部会長：鶴尾安代）が農産物の市場流通について学ぶとともに会員同士の交流を図ることを目的に現地研修会を実施し、会員14名が参加した。

西日本最大級の大阪市中央卸売市場本場を訪れ、市場協会の担当者から市場での注意事項を聞いた後、果実卸売場、水産卸売場並びに野菜卸売場を見学した。

せりが終了していた果実のせり場では、担当者からせりをするときに使う、手で数字を表す手振符牒（てぶりふちょう）を体験した。その後、日本各地から届いた旬の果物がところ狭しと並んでいる仲卸店舗を見学し、その場で果物の仕入れ体験もすることができた。

約2時間の見学コースの終わりに市場内のせりの様子や概要等を解説したビデオを鑑賞した。

会員からは、「和歌山県産の桃や初めて見る野菜もあった」、「仲卸店舗で果物や水産物の仕入れ体験ができて、勉強になった」などの感想があった。

次回は、11月に日高町内で研修会を実施する予定である。



せりの担当者から説明を聞く会員



仲卸店舗での仕入れ体験

### 3. 印南町農業士会がサル対策研修会を開催

印南町農業士会(会長：尾曾紀文)は、7月26日、三重県伊賀市の阿波地域住民自治協議会を訪問し、地元代表者及びサル対策に携わってきた兵庫県立大学山端教授からサルの生態と被害対策について説明を受けた。

阿波地域は、主要農産物の米、麦、大豆等へのサル被害はもちろんのこと、住宅内にサルが侵入し日常生活が脅かされる程サルによる被害が大きかったが、地域住民が一丸となった追い払い活動に加え、ワイヤーメッシュ+電気柵(おじろ用心棒)の設置、捕獲による個体数管理に取り組んだ結果、被害をほぼなくすことに成功。平成25年度鳥獣被害対策優良活動表彰において農林水産大臣賞を受賞している。

説明では、まず地域の「エサ場価値」を下げるのが最重要であり、①不要果樹等エサ場の除去、②藪等の隠れ場の解消、③防護柵の設置、④効果的な追い払いに取り組む必要があるとのことで、特に④の追い払い効果を高めるためには、サルを発見する度に、複数人で、サルの動きに逆らわず、集落外まで追い払うことを繰り返すことが重要で、阿波地区では、老若男女を問わず、地域住民が協力し合って実施してきたとのこと。

印南町においてもサル対策への関心が高まっており、出席者からは、サルの習性、箱罠に適した餌の種類、地域の合意形成のプロセス等熱心に質問が出されるなど、充実した研修となった。

農業水産振興課では、サルに発信機を取り付け行動域調査を行うとともに、その情報を農業者に提供する等の支援を継続していく。



熱心に聴講する参加者



「おじろ用心棒」設置現地での説明を受ける

## VI 西牟婁振興局

### 1. 重点プロジェクト【気象条件等に対応した果樹産地の振興】

#### ～温州ミカン「YN26」粗摘果講習会を開催～

上富田町岡に設置している温州ミカンの極早生品種「YN26」栽培実証園において、7月11日、粗摘果講習会を開催した。若手生産者、JA紀南営農指導員、果樹試験場研究員及び農業水産振興課職員合わせて16名が参加した。

まず始めに、5年間取り組んできた栽培実証園の経過と、実証園を活用した「YN26」の生産振興に係る栽培技術講習会の開催方針について、前田普及指導員が説明を行った。

続いて、今年の薬剤防除等の管理状況について、園主の前田純志氏（青年農業士）から説明があった。

講習会では、果樹試験場の田嶋主査研究員から、これまでに「YN26」生育調査で得られた知見を基に、粗摘果すべき主な果実（果実の着果部位（フトコロとスツ）や果実の大きさ（目安は7月11日時点で36mmより小さい果実）、スレキズや病害虫被害果）の説明と実演が行われた。

その後、参加者は3人一組で意見交換しながら粗摘果の実習を行った。参加者からは、「説明が分かりやすく摘果する果実を見つけやすかった」「1年ぶりに摘果作業を行ったが、感覚がつかめてきた」などの感想が聞かれた。

今後、白色透湿性シートの被覆、仕上げ摘果、乾燥時のかん水による水分管理を行い、実証園における登録商標「紀のゆらら」の出荷割合35%以上を目標に取り組む（最終目標は50%以上）。



摘果講習会



## 2. 茶の深刈りを実施

7月9日、田辺市本宮町の本宮大社園地において、生産者と農業水産振興課の明渡技師、稲葉技師の指導により茶樹の深刈りを実施した。

深刈りとは、古くて勢いのない細かい枝を剪除することを目的に、太い枝まで切り戻し、勢いのある夏秋梢を発生させる整枝方法である。このような整枝により、樹体の高さの調節や枝数の増加を抑制することができる。今回は、虫害の発生が顕著な樹について、被害部分を剪除する方法による深刈りを実施した。

明渡技師から整枝位置を説明した後、整枝機を用いて生産者と共に作業を行った。

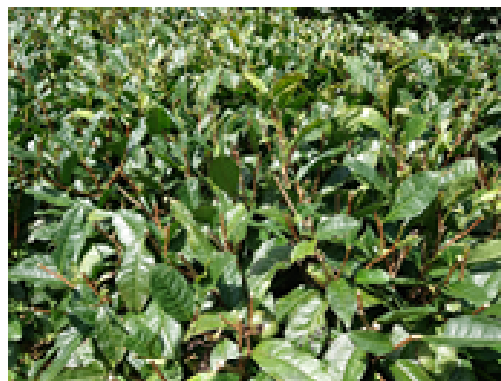
整枝後は、夏期の防除方法について指導した。また、夏期に生長する夏秋梢が行う光合成によって蓄えられる養分が、翌年の一番茶芽の養分となり、夏秋梢の状態が茶の品質に影響するため、夏期の防除を徹底することが茶の栽培管理での鍵となることを説明した。

今後は、生産者と一緒に茶樹の生育状況を確認していくとともに、茶の高品質生産に向け樹勢回復作業や樹勢維持のための栽培指導を続けていく。



深刈り作業

2人で機械を使って枝を刈る



深刈り後の状態

細かい枝を取り除いた



### 3. すさみ町立周参見小学校で「ももの出前授業」を実施

7月13日、周参見小学校4年生の児童(22名)に、農業水産振興課の前田普及指導員と稲葉技師が和歌山県のももの生産についての出前授業を行った。和歌山県は、地産地消の取り組みとして平成24年度から県内小学校・特別支援学校を対象に、給食や家庭科等の教材として使用する主要農水産物の提供を行っている。今回は6月のうめに続き第2弾の取り組みである。

まず、ももの産地・品種・栽培方法・栄養について説明を行った。児童たちは興味深く説明を聞いていた。前日に児童たちへ「もものお話」のプリントを配り、質問を考えて来てもらったところ、20以上の質問が上がった。もものおいしい食べ方、名前の由来、いつの時代から食べられるようになったか等の質問に実例を交えながら、前田普及指導員が説明した。

その後、ももを4~5人のグループに1つ配り、児童たちは外観を観察したり、香りを楽しんだ後、試食をした。「皮に細かい毛が生えてる」「皮をむく前と後で香りが違う」「今まで食べた中で一番おいしい」等の意見があり、おいしそうに食べていた。

最後に、児童から感想の発表があり、「これまではももは苦手だったけど、今日食べて好きになった」「和歌山県のももの生産が何番目かや、どうやって栽培するかなど色々なお話が聞けて良かった」とももへの関心、理解を深めたようであった。前田普及指導員から各家庭で今日知ったことを家族に伝えてほしい、家族でも桃を食べることを楽しんでほしいと呼びかけた。今後も当課では関係機関と協力しながら、食育を推進していく。



ももの説明をする前田普及指導員



協力してももの皮を剥く



自分たちで剥いたももを食べる

## 4. ヨモギ栽培実証展示圃について

ヨモギは、草餅等の加工原料として需要があるが、近年、乱獲やシカによる食害などにより、自生するヨモギの確保が年々難しくなっている。そこで、農業水産振興課では、山採りではなく、ヨモギの安定生産を目的としてすさみ町太間川地域の抜田佐代氏（指導農業士）の圃場に、ヨモギ栽培実証展示圃を設置している。栽培実証展示圃では、本年3月にオオヨモギの地下茎約1,300株を定植、シカに食害されないようにワイヤーメッシュ等の防護柵を設置し、園主とともに圃場管理や生育調査を行っている。今年度は株の育成期間とし、来春からの収穫を予定しており、収量性等の検討を行う。

当課では、今後も高齢化が急速して進んでいる中山間地域において、極力手間をかけずに栽培できる作物を導入することにより、遊休農地の活用に向けた普及活動を関係機関と連携しながら実施していく。



出芽時期の状態(4月上旬)



生育状況(6月10日)

## Ⅶ 東牟婁振興局

### 1. 重点プロジェクト【新規就農者の育成を核としたイチゴの産地育成】

#### ～「まりひめ」の高品質多収栽培研修（第2回セミナー）を開催～

7月10日、那智勝浦町宇久井の休暇村南紀勝浦において、那智勝浦町苺生産組合（会長：杉浦 仁）の第48回総会及び研修会が開催された。

当日は組合員12名と来賓、関係者が出席した。冒頭、杉浦会長から「平成29年度は10月の台風や低温によって、収穫時期が遅れ出荷量に大きく影響があった。」と報告。また、大きな被害の爪痕を残した西日本豪雨にふれ、「農家のわれわれも災害があった時、そして、災害の後にどう行動すべきか考えなければ」と挨拶があった。表彰式では、マスコットキャラクターの「まりりん」も加わって、販売額などに応じ、優秀な成績を残した会員に対し賞状が授与された。総会では事業報告、事業計画案ともに原案のとおり承認された。

総会終了後、高品質多収栽培研修会（第2回イチゴセミナー）が開催され、県農業試験場の東主任研究員から「まりひめの高品質多収栽培に向けて」、同試験場の井口主任研究員から「イチゴのハダニの防除について」、県農業共済組合南部支所の井上支部長から「農業経営収入保険について」、JAみくまのから「JAグループ和歌山県版GAP導入等について」と題して講話があった。会員からは、育苗時の肥料の量やタイミング、ハダニ類の天敵の放飼時期などについて質問があり、活発な研修会となった。

農業水産振興課では、栽培研修会（イチゴセミナー）や現地検討会の開催など普及指導計画に沿って、那智勝浦町苺生産組合の活動を支援していく。



杉浦会長挨拶



優良会員表彰式



研修会第2回イチゴセミナー



## 2. 地場産青果物対策協議会が先進地視察研修を実施

7月25～26日、地場産青果物対策協議会（会長：小田 三郎）は、視察研修を実施し、京都府南部総合卸売市場（京都府宇治市）と京都府南部の京野菜の産地（京都府宇治市、八幡市、久御山町）を視察した。当日は生産者11名（うち新規就農者2名）の他、市場関係者、JAみくまの及び農業水産振興課の計18名が参加した。

卸売市場の視察では、早朝の競りを見学した後、京都南部生果株式会社の橋本尚樹部長から、近郊野菜の取扱いについて説明を受けた。南部総合卸市場では、近年の京野菜人気に加え、生産部会と市場が一体となって販売促進に取り組んでおり、取扱量は年々増えているとのことだった。しかし、今年は、7月上旬の豪雨とその後の猛暑の影響により、取扱量は昨年の8割程度とのことだった。

現地視察では、京野菜の九条ネギ、コマツナ、ナス、キュウリの圃場を見学した。現地では、高温期の栽培方法や防除方法について活発な意見交換や質疑応答がかわされ、先進地の栽培技術について知ることができた。

今回、参加した新規就農者からは、「勉強になった」、「意欲がでた」などの感想があり、非常に有意義な研修となった。



京都府南部総合卸売市場の競り場



現地視察



## Ⅷ 農林大学校

### 1. オープンキャンパスを開催

7月24～26日の3日間、オープンキャンパスを開催したところ、受験を考えている高校生ら延べ24名が参加した。

オープンキャンパスでは、まず講堂で、職員が学校説明など行った後、在校生3名が農林大学校に入学して実際に感じていることや体験したこと等について発表すると共に、意見交換を行った。その後、24日は花きコースで花のラッピング、25日は果樹コースで柿の摘果、26日は野菜コースでメロンの出荷調整の実習体験が、在校生と一緒に行われた。

参加した高校生からは、「たくさんの資格をとれる機会があるのが嬉しい」、「先輩がとても充実した学校生活・寮生活を送っているのがよくわかった」、「実習は、専門的で難しいところもあったが、先輩が丁寧にわかりやすく教えてくれて、とても楽しかった」という声が聞かれた。



在校生によるカキの管理方法の説明



メロンの出荷調整実習体験

## IX 農林大学校 就農支援センター

### 1. 平成30年度ウイークエンド農業塾 農業入門コース（第1班）閉講

ウイークエンド農業塾農業入門コース（第1班）が7月15日に意見交換会及び閉講式を行った。受講者8人のうち7人が修了し、岩尾所長から修了証書が手渡された。修了者は今後、県内各地域で家庭菜園や直売所への出荷など、取り組み内容は様々だが7名全員が何らかの形で農業に携わることになる。

意見交換会では「作物の栽培のポイントが知ることができた」、「参加者の皆様と知り合いになれよかった」、「第2班も受講したい」などの意見が出された。



ナス収穫実習



閉講式後の意見交換会

### 2. UIターン就農相談フェアおよび農業体験研修を開催

7月22日、県内での自立就農やIターン就農希望者、農業法人等への就職希望者を対象とした「UIターン就農相談フェア」を開催した。

就農までの道筋や栽培技術習得のための研修について等、来場した6組8名の相談者から幅広い相談があり、農地や資金、経営、就農支援センターで受けることができる研修内容について説明を行った。

また、同日開催された農業体験研修では5名が参加し、ナス、オクラ、ブルーベリーの収穫・出荷調整やほ場での耕うん作業を体験した。「暑い中の農業体験となり大変であったがよい経験になった」という声やこの体験研修をきっかけとして、「技術習得のためにその他の研修を受講したい」と希望する声もあった。



相談会



農業体験研修

## X 経営支援課

### 1. 第1回経営発展セミナーを開催

経営支援課では、地域を担う強い農業経営体の育成を図るため、平成30年度新政策として「農業経営発展サポート事業」を実施しており、その一環で成功者の講演及び座談会からなる経営発展セミナーを県内各地域で5回の開催を計画している。

7月3日、第1回目のセミナーを県果樹試験場で開催し、53名が参加した。

講演では、稲住農園 稲住昌広氏及び(株)早和果樹園 代表取締役会長 秋竹新吾氏から自身の経営の取組について、また、(株)オーレンスパートナーズ 執行役員 宮村昌吾氏から「農業における労務管理」について講演いただいた。講演後、「経営規模拡大と販売戦略について」をテーマに座談会を実施し、15名の農業者が参加した。

参加者アンケートから、「勉強になった」「規模拡大、加工を目指したい」「色々な話が聞けて良かった」など前向きな意見が見られた。また、経営発展の課題として、規模拡大や雇用、省力化などが挙げられたが、最も多かったのが、「労働力の確保、人材の確保」に関することであった。



稲住氏の講演



座談会

## 2. わかやま農業MBA塾を開講

「農業経営発展サポート事業」の一環で、農業経営体の経営力の向上を図るため、日々の経営で直面する課題や問題点を解決へと導く問題解決力を養う「わかやま農業MBA塾」を、7月17日に開講し、21名の受講生が参加した。第1回は、開講式で受講生の決意発表を行い、その後、(株)アグリコネクト 代表取締役CEO 熊本伊織氏からの「経営者としての考え方」について講義や経営理念を作るためのグループワークが行われた。決意発表では、「次世代まで引き継ぐ会社経営をしたい」「地域や社会に貢献する、就農希望者の受け皿、ブランド産地を守る力を付けたい」などの力強い意見があった。

今後、受講生は、3月まで計12回、専門家の講義やグループ討議を重ね、6次産業化、規模拡大、法人化などを目指す経営計画を作成する。

また、振興局の普及指導員は、経営計画策定のサポート等受講生をフォローアップしていく。



開講式



グループワーク



### 普及活動現地情報 発行・編集

和歌山県農林水産部経営支援課	TEL073-441-2931	FAX073-424-0470
海草振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL073-441-3377	FAX073-441-3476
那賀振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0736-61-0025	FAX0736-61-1514
伊都振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0736-33-4930	FAX0736-33-4931
有田振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0737-64-1273	FAX0736-64-1217
日高振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0738-24-2930	FAX0738-24-2901
西牟婁振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0739-26-7941	FAX0739-26-7945
東牟婁振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0735-21-9632	FAX0735-21-9642
和歌山県農林大学校	TEL0736-22-2203	FAX0736-22-7402
和歌山県農林大学校就農支援センター	TEL0738-23-3488	FAX0738-23-3489